

牧羊ひろば



大久保めぐみ教会 教会学校

「幼な子らをわたしの所に來るままにしておきなさい。止めてはならない。神の国はこのよな者の国である」マルコ10:14

●教会設立と

教会学校の働きの開始

私たちの教会は、兵庫県の西部にあり、人口が七万六千人余りの町です。JR大久保駅の周辺が開発されて、人口

が増加傾向にあり、古い住宅の立て替えもだんだん進んできています。私たちは今年創立七十八周年を迎えた明石人丸教会の永年の祈りと伝道に

よって誕生した教会です。これまで数箇所の家庭集会や教会学校分校が行われて、種まきが続けられてきました。

一九九九年から、伝道所開設を目指して、日曜の午後の礼拝が地域の集会所を借りて始まりしました。六年前の

二〇〇五年七月に現在の会堂が建設され、明石人丸教会から四十名ほどの信徒たちが分かれて群れをつくり、「明石人丸教会大久保会堂」となりました。そして昨年二〇一〇年四月に「大久保めぐみ教会」として設立式を行い、第一種教会としてスタートしています。

会堂が建設されるまでは、大久保地域には二つの教会学校分校がありましたが、献堂を契機に大久保会堂に統合されました。ですから、教会学校にだけだけの人が集まるのかも未知数でしたが、とにかくCSに関心を持つ人たちが五人が教師となり、教会全体の助けを受けながら進み出しました。

●子ども大会―地域に根付くために

①案内試行錯誤

献堂式の前に二万枚のチラシを用意して教会案内を配りました。チラシの中に特別集会として「子ども大会」の案内をしていましたので、最初の子ども大会には明石人丸教会の助けもあつて、大人と子ども合わせて百名、地域の子どもたちが二十〜三十名ほど集いました。

その後も毎月第三週の土曜日午後二時に、原則として



第一回子ども大会

子ども大会を開いています。大人が多い日もありますが、平均して十五名ぐらいの出席です。二回目からは小学校にチラシを配りに行っていました。が、次第に受け取る子どもが減り、捨てられてしまうことが多くなってきたため、半年ほどで止めました。その後のチラシ配りはクリスマスなどのときだけに變更しています。

けれどもそのクリスマス案内も目に見える効果がなく、集団下校する彼らに渡すのも難しい状況に変わってきました。そこで、教師たちがアイディアを出し合い、それまで配っていたA6サイズのチラシから少し固めの紙でチケットサイズにかえて、小学校の校門から少し離れて配ることにしました。低学年の子どもたちは喜んで受け取ってくれましたが、これも人集めには効果が少なかったように感じました。

たまたま配布の日に大雨に降られてチラシが残ってし

まったため、担当していたCS教師が翌日公園で遊んでいるおじいちゃんとお孫さんに手渡したことがきっかけとなつて、このご家族が昨年から子ども大会に続けて来てくれるようになっていきます。これは思いがけない神様からのプレゼントでした。

子どもたちが集まるチャンスは、案外企画外のところにあるようです。時間に余裕のある壮年のための集いとして始められていた「囲碁将棋交流会」（月末の土曜日午後一時から）に、近所の将棋大好き少年が来るようになり、子ども大会のクリスマスなどにつながることもありました。

最近では教会の近くに住むピアノを教えている姉妹が、ピアノの生徒たちにチラシを配ってくださったことがきっかけで、十五人ぐらいの新しい子どもたちがクリスマスから続いて集っています。

チラシ配布の必要と共に感じることは、子どもが友だちを誘ってくるのが、本当に効



子ども大会クリスマス

果的だということでした。

この子ども大会の案内のために毎月がきを用意して手渡しと郵送をします。お正月は年賀状を用いて兄弟がいても一人ひとり別々に送ります。子ども大会の在籍は現在六十名を超えました。参加者はその月によってばらつきがありますが、子どもも大人もそれぞれ五人〜十五人ほどの入れ替わりです。子どもたちには保護者の方がついて来られるので、交わりの機会が与えられて感謝です。

子ども大会 餅つき



子ども大会 ミニ運動会



② プログラム内容

プログラムは、さんび、お祈り、み言葉暗唱、聖書の紙芝居や聖書の絵本のあとで短いお話、その後はお楽しみ会です。クリスマス、餅つき、ゲーム、ミニ運動会、たこ焼き、イチゴツミ、芋ほり、スイカ割り、リース作り、カード作りなど、知恵をしぼっています。



子ども大会 芋ほり



子ども大会 スイカ割り

昨年の八月は、カレーライスの昼食を済ませてから、教会の中庭で大型のゴムプールを二つ用意して水遊びをしました。準備は壮年の方々に助けてもらいました。この月の水道代はいつもより上がってしまいました。が、今年はずっとプログラムを充実させる予定です。

私たちの教会の敷地には牧師館用地が三十坪弱あるので、そこを開墾して毎年サツマイモを植えます。土地の準備はこれまで畑係(農事に関心のある方々)のみなさんが協力してくださいます。

③ 今後の願い

このように私たちの教会学校の現状は「開拓」であり、子ども伝道のメインは「子ども大会」です。何とか地域の子どもたちが教会の存在を知り、教会が特別なところではなく、だれでも入っていい身近な存在となるようにと願っています。そして中長期

的には、その中から礼拝につながり救われる人たちが起こされることを祈っています。

●日曜日の礼拝と分級

現在はCS教師が四名（男性一名、女性三名）です。私たちの教会は、いつも子どもと大人と一緒に日曜の朝十時から十一時まで礼拝をしています。集っている子どもたちは、家族のだれかがクリスチャンであるか求道者である大人と一緒に集まっています。礼拝の中で子どもたちは大人に混じって、毎週一人ずつ順番に献金当番の奉仕をします。



幼稚科分級の様子

六年前は、下はゼロ歳児から上は十歳まで本当に幼い子どもたちだけでした。そして礼拝は大人のお話だけだったのですが、途中から二ヶ月に一度ぐらいの割合で、切り絵などの視覚教材を使って牧師が十分程度、その日のメッセージを分かりやすくまとめてお話をするようにしました。



高学年分級の様子

幼稚園は賛美を歌って、その日のみ言葉カード（教会独自のものを作成）をカード帳にはり、先生と子どもたちがお話をし、お祈りで終わります。小学科の分級は牧羊者のワークBをします。最近やるとワークCを学ぶ子どもたちも起こされています。



小学科分級の様子

礼拝後は分級となります。五く六人が幼稚園で、小学生が一人だけの状態から始まっていたので、しばらくは皆一緒にの単級をしていましたが、徐々に小学科を分けてもつようになりました。

現在は説教の前に一く二枚の紙芝居などを用いて、できるだけ毎週子どもにも分かる部分を組み入れるように努めています。礼拝メッセージは、牧羊者のカリキュラムに従っています。

部屋数と担当者の不足から、現在は小学校高学年と中学生の男子は男性の先生が一人で分級を指導しています。この男性のグループの生徒は子どもだけではありません。五年前に洗礼を受け、耳が遠くて礼拝メッセージが聞きにいくい八十歳の壮年の方が一人、生徒として子どもたちと並んで聖書を学んでいます。

●現状と展望

私たちにとっての一つの課題は部屋の問題です。分級をするには部屋数が少ないため工夫が必要です。現在は、男性のクラスが礼拝堂、小学科が事務室、幼稚科は母子室に分かれています。礼拝堂は礼拝直後ですぐに分級に入れないのが難点です。今後牧師館を建てる時には、教育館の構想も必要だと思っています。

もう一つの課題はCS教師の養成です。毎月のCS教師会も十分ではありません。子ども大会の企画と日曜の分級や子どもたちの状況を話し合う程度になっています。で、学びと祈りの充実も必要です。また現在の担当者が皆六十歳代であるので、これからの若いCS教師を育てていくことも祈りの課題です。

教会で一時間あまり過ごす子どもたちのあとの時間は、すべて家庭と学校での時間です。教会学校で、教師と触れている時間は本当にわずかです。しかも、一回休むと二週間のブランクとなります。このことを考えるとCS教師に託されている分級の十五分の時間は大変貴重なものです。礼拝と分級を終えてからの一週間、彼らが家庭や社会で守られ、霊的に養われていくために、背後で祈ることがどんなに必要であるかを思わないではいられません。そして、彼らを養っている保護者の方々の信仰が成長していくことも、大変重要なポイントであると感じています。

先日、小一時間ほどかけて礼拝に集ってこられていた三十代の壮年の方（客員）がこうおっしゃいました。「子どもたちを教会学校に連れて行きたいので、やはり近くの教会に通うことにします」と。この方にはまだ洗礼を受けていらつしやらない奥様と、四歳と一歳の女の子さんがいらつしやいます。ご家族を残して彼だけが礼拝にいられていたのでした。

私たちにとって忠実な礼拝者を失うことは大変残念なことです。けれども、このお父さんを持った子どもさんは幸せだと思いました。神様の愛に触れ、聖書に教えられて

育つことの大切さを知って実行に移そうとされているからです。この男性はしっかりしたクリスチャンホームに育たれ、家族の救いが必要であることを知っておられたのです。子どもへの伝道、その保護者への伝道は連動しています。試行錯誤中の私たちの教会学校ですが、神様の愛を知る喜びと恵みに励まされて、主に委ねられた務めを果たさせていたきたいと思います。

現在の生徒は、フルメンバーで中学生一名、小学生五名、幼稚科五名の小さな日曜日の教会学校です。子ども大会だけの子どもたちも多いので、保護者の方々との関係作りも含め、幻を抱いて前進したいと願っています。

(光田隆代)

「おわりに」

『牧羊者』二〇一一年度第Ⅱ巻をお届けできますことを感謝します。3月11日に発生した東日本大震災によって、色々な面で大変な中、執筆者の方々には貴重な時間を割いて執筆していただき、心から感謝いたします。今回の教師養成講座は、金井信生師の「子どもに届く説教」を掲載しました。また、「牧羊ひろば」では、教会として新しくスタートした大久保めぐみ教会の教会学校の歩みを、光田師に紹介していただきました。

終わりに今号の執筆者、奉仕者を紹介いたします。

聖書講解

福井文彦師 高橋頼男師 金井信生師
山田和幸師
宮澤清志師 中島啓一師 小平德行師
飯田勝彦師 和田治師 水野晶子師
松浦みち子師

研究資料 メッセージ例

ワーク(A)

吉田美穂師 鎌野 幸師
野勢かほる師 竹崎光則師
(C) 長尾明美師 小菅央子師
(D) 上森恭子師 田中裕明師

中高科へのヒント

子ども聖書日課
フラッシュカード
イラスト
小野淳子師 土屋直子師 藤井洋美師
丹羽 遥姉
丹羽 遥姉

ワープロ打ち込み

楠淳子師 長尾明美師
正 長田栄一師 加藤清師 山田和幸師
校 長尾秀紀師 長尾明美師

また、陰で労してくださった各師と兄弟姉妹、ワーク印刷

と発送の教団事務
所職員の方、印刷
刷のあくもと菱三
印刷に心から感謝
いたします。

(長尾秀紀)

聖書教育教案誌 牧羊者

二〇一一年度Ⅱ巻

発行所 日本イエス・キリスト教団 二〇一一年七月一日発行

企画監修 日本イエス・キリスト教団教会学校局
神戸市兵庫区塚本通三三一九

印刷所 菱三印刷株式会社
電話 〇七〇 五七五 一五五 一
FAX 〇七〇 五七五 一六六 一

*日本聖書協会『口語訳聖書』使用許諾済み
電話 〇七〇 五七六 一三九 六一